# 学体連会報

発　行　所
発行日・昭和56年7月1日
東京都渋谷区代々木神園町3番1号
国立オリンピック記念青少年総合センター内
財団法人日本学校体育研究連合会
編集責任者　理事長　重　田　一

## 一　本　の　藁

会長　大　石　三四郎

一本の藁は細くて弱い。しかし、この藁を一本一本いただいて束ねる。百本とまとめて束ねると弱くない。一応の強さを持つことができる。そして、この百本単位のものを三本まとめて、三百本の束にするとますます強くなる。一本の藁に火をつけて燃やしても、火はなかなかつかない。ついてもすぐ消える。ところが、十本とまとめて火をつけると、何とか燃えだす。これが百本の束になると、その火は強く、なかなか消えない。これが三百本の束になれば、その火勢は大変なものとなる。したがってこの三百本の束が、その三百倍と集まれば巨大な束となり、もし火がつけば、大変な火勢となってその火を消そうとしてもなかなか消えるものではない。

私は一本、一本と会員校の皆様から藁を集めて、大きな束とするよう夢をみている。1校、1校をお訪ねする気魄でこの文章を書いている。どうか、会員校の皆様、一本の藁を私に下さい。現在それでは、どんなことをすればよいか、とお尋ねになるなら、「現代小学校体育全集」（ぎょうせい刊）を一校で、1組ずつ買って下さいとお願いしたい。この1本の藁が集まると、巨大な力を私にくれたことになる。この力こそ、日本学校体育研究連合会の力となる。一本の藁と笑って下さるな。これこそ、わが組織のエネルギー源になるものである。

私は、盤水の中に入れられた一本の箸である。この箸を回すのは、会員校の皆さんである。初めは、抵抗が強くこの箸で水を回すことができない。しかし、皆様のお力添えによりこの盤水が力強く回り出したら大変なことになる。今度は、私が止まろうとしても止まるものではない。盤水に流されて、その止まるところを知らない筈である。会員諸公よ、私に力を与えて下さい。私を回してみて下さい。そこには、わが組織のエネルギーがある。その力とはこの「現代小学校体育全集」を買うことに外ならない。よろしく、私に、エネルギーを賜れ。

## 「ファミリー・スポーツ委員会」とスポーツ文化会議

社団法人全国大学体育連合、財団法人日本学校体育研究連合会、財団法人余暇開発センターでは、スポーツが日本人のレジャーとして習慣化、生活化することを願って、ファミリー・スポーツを振興する機構として「ファミリー・スポーツ委員会」を設立いたしました。

この委員会は、レジャー社会におけるスポーツ単位としてファミリーに焦点を合わせ、ファミリー・スポーツを振興させるための諸種の支援事業を行うことを目的に設立したものです。

**＜活動事項＞**

(1)家庭を構成する家族全体および個々の成員が年齢および自己の嗜好に合ったスポーツ能力の開発を行うことを支援する。

(2)レジャーとしてのスポーツだけではなく、社会体育、学校体育のための専門的な教育およびその教育の場を与える。

(3)本会の目的を達成するために、体育、スポーツ全般にわたる情報の収集と専門家間の交流を深める。

(4)情報提供、指導、催し開催などを行う。

**＜役員名＞**

| | | |
|---|---|---|
| 名誉会長 | 松田智雄 | 図書館情報大学学長 |
| | 石川忠雄 | 慶応義塾大学塾長／㈳全国大学体育連合会長 |
| 顧問 | 伍堂輝雄 | ㈶日本レクリエーション協会々長 |
| | 牛尾治朗 | ウシオ電機㈱会長 |
| | 河野謙三 | ㈶日本体育協会々長 |
| | 大島正光 | ㈶医療情報開発センター理事長 |
| | 武見太郎 | 日本医師会々長 |
| | 永井道雄 | ㈱朝日新聞社客員論説委員 |
| | 永野重雄 | 日本商工会議所会頭 |
| | 柳川覚治 | 文部省体育局長 |
| 会長 | 佐橋滋 | ㈶余暇開発センター理事長 |
| 組織委員会 | | |
| 委員長 | 大石三四郎 | 国立特殊教育総合研究所々長／㈶日本学校体育研究連合会々長／㈳全国大学体育連合専務理事 |
| | 浅田隆夫 | 筑波大学教授 |
| | 伊東明 | 上智大学教授 |
| | 坂井正郎 | 国士館大学教授 |
| | 鈴木正三 | 学習院大学教授 |
| | 鈴木祐一 | ㈶日本体育協会事務局長 |
| | 滝沢英夫 | 東京大学教授 |
| | 中村誠 | 東京都立大学教授 |
| | 重田一 | ㈶日本学校体育研究連合会理事長 |
| | 北岡丈人 | 日本ボウリング振興協議会議長 |
| | 金田二郎 | ㈳日本ゴルフ場事業協会専務理事 |
| | 瀬尾實 | 全国運動用品商工団体連合会々長 |
| | 玉利斉 | 日本健康スポーツ連盟理事長 |
| | 結城栄一 | 日本医師会常任理事 |
| | 吉田正志 | ㈶日本レクリエーション協会常務理事 |
| | 馬越善通 | ㈶日本サイクリング協会副会長 |





| | | |
|---|---|---|
| | 山本貞彰 | 日本スペシャルオリンピック委員会々長 |
| | 長尾成吾 | ㈶余暇開発センター常務理事 |

主要団体の概要

**1　社団法人　全国大学体育連合**

文部省認可の社団法人で、四年制大学、短期大学の正課体育担当者の研究交流、研修機会、親睦を目的とした機関。現在365大学が加盟、事務所は東京都千代田区丸の内3－3－1新東京ビル623号（呼電212－1501）、会長石川忠雄（慶応義塾大学塾長）、専務理事　大石三四郎（筑波大学名誉教授）

**2　財団法人　日本学校体育研究連合会**

文部省認可の財団法人で、小学校、中学校、高等学校の体育教師の研修機会、親睦を目的とした機関。組織は46都道府県単位の加盟で構成されている。事務所は東京都渋谷区代々木神園町3－1国立オリンピック記念センター青少年総合センター内（電465－3954、7464）、会長　大石三四郎（筑波大学名誉教授）、理事長　重田一（前東京都立富士高校校長）

**3　財団法人　余暇開発センター**

通産省認可の財団法人で、わが国余暇問題のシンクタンクとして民間企業と日本自転車振興会の基金をもとに設立された機関。事務所は東京都千代田区霞が関3－8－1虎の門三井ビル内（直通電話591－8082）、理事長　佐橋滋。

### 昭和56年度事業組織

スポーツ文化会議、ファミリンピック'81フェスティバル、ファミリンピック・フォトコンテストの3事業を行うための組織は以下のとおりです。

| | |
|---|---|
| 主催 | 社団法人　全国大学体育連合<br>財団法人　日本学校体育研究連合会<br>財団法人　余暇開発センター |
| 後援 | 総理府／文部省／通産省／自治省／厚生省／学習院大学／健康福祉研究会（日本商工会議所／日本医師会／㈶日本体育協会／㈶日本レクリエーション協会、他）／日本ボウリング振興協議会／㈳日本ゴルフ場事業協会／日本健康スポーツ連盟／㈶日本サイクリング協会 |
| 協賛 | 富士写真フイルム株式会社 |
| 事務局 | 〒100　東京都千代田区霞が関3－8－1<br>虎の門三井ビル内<br>財団法人　余暇開発センター「ファミリー・スポーツ委員会」<br>電話　03－591－8082　事務局　鈴木文夫<br>松田義幸 |

### ◎スポーツ文化会議

レジャー社会におけるクオリティ・スポーツ、スポーツ文化のあり方を求めて、体育関係者、スポーツジャーナリスト、スポーツ行政関係者、スポーツ事業関係者が一同に集り、研究発表、討議を行います。

概要は以下のとおりです。

期　日　　昭和56年8月1日（土）～2日（日）
場　所　　学習院大学
参加費　　一般　¥1,000－　　学生　500－

プログラム構成

＜基調講演＞　スポーツに対する関心が高まり、今やスポーツは学際的テーマになりつつある。最近の文化人類学、社会学、哲学といった分野から「スポーツ文化」の新しい視点を提示。

＜特別講演＞　「レジャー社会」「文化の時代」という今日的状況に、生涯スポーツ、コミュニティ・スポーツ、ファミリー・スポーツ、障害者とのスポーツ交流をどのように位置づけるべきかを提示。

＜記念講演＞　スポーツの世界を具体的に興味深く語りかける。
＜シンポジウム＞
　テーマ①　スポーツの魅力を探る。
　テーマ②　レジャー社会に向けてのスポーツ文化を求めて
＜Workshop＞　現在スポーツ問題に直接携わっている研究者、関係者の参加による問題の発見、問題の解決を探る。
① 生涯スポーツ教育部会
② 障害者のスポーツ交流部会
③ トリム健康教育部会
④ スポーツ産業部会
⑤ スポーツ情報部会

**8 月 1 日（土）**

午前
開会式　10：00～10：40
基調講演　10：40～12：00
「スポーツの歓び」
ポール・ワイス
（エール大学名誉教授、哲学者）

午後
専門研究部会　13：30～18：00
5会場で同時進行

① 生涯スポーツ部会
司会　松田義幸（筑波大学助教授）
〃　遠藤靖夫（朝日新聞記者）
永井孝子（中央区東華幼稚園教諭）
安藤孝行（台東区立待乳山小学校長）
浜口義春（保谷市立保谷中学校長）
鈴木一正（都立北高校教頭）
滝沢英夫（東京大学教授）
浅田隆夫（筑波大学教授）

② 障害者のスポーツ交流部会
司会　中村　誠（東京都立大学教授）
〃　村田　茂（特殊教育総合研究所）
大平義次（埼玉県立盲学校教諭）
勝矢光信（電話相談員）
中川一彦（筑波大学助教授）
橋場賢一（川崎聾学校教諭）
山本貞彰（聖ミカエル学院理事長）

③ トリム健康教育部会
司会　大島正光（医療情報センター理事長）
飯塚鉄雄（横浜国立大学教授）
小町征弘（東村山市体育課長）
池田　勝（筑波大学助教授）
江橋慎四郎（前東京大学教授）
高田　昂（北里大学教授）
渡辺俊男（日本大学教授）

④ スポーツ産業部会
司会　淀野隆之（評論家）
〃　中山裕登（余暇開発センター研究員）
大塚昌宏（全日本ゴルフ用品商工連合協会事務局長）
金子恒雄（兼松スポーツ用品㈱取締役）
瀬尾　實（全国運動用品商工団体連合会々長）
田舛彦介（㈱タマス社長）
玉利　斉（日本健康スポーツ連盟理事長）
寺西光治（㈱アシックス副社長）
深瀬吉邦（中央大学教授）
藤井英男（弁護士）
松下　忠（日本ボウリング振興協議会事務局長）

⑤ スポーツ情報部会
司会　松田智雄（図書館情報大学々長）
〃　遠藤卓郎（図書館情報大学講師）
阿部繁明（日本体育大学助教授）
牛木素吉郎（読売新聞運動部記者）
菅原　勲（日本体育大学助教授）
成田十次郎（筑波大学教授）
芳賀　脩光（筑波大学助教授）
長谷部紀元（図書館情報大学助教授）
水野　忠文（日本女子体育大学々長）
三輪真木子（筑波大学研究員）
森岡　理右（筑波大学助教授）

**8 月 2 日（日）**

午前
特別講演　9：00～10：00
「レジャー・スポーツの人間的意味」
ジョセフ・レビイ
（ウォータールー大学準教授、レジャー論）
シンポジウム 1　10：00～12：00
「スポーツの魅力を探る」
司会　川本信正（スポーツ評論家）
清水　晶（映画評論家）
下条由紀子（「ランナーズ」編集長）
藤岡和賀夫（電通プロデューサー）
岡崎　満義（「Number」編集長）





**8 月 2 日（日）**

午後
記念講演　13：30～14：30
「武道と人間の成長」
佐橋　滋
（余暇開発センター理事長）
シンポジウム 2　14：30～17：30
「レジャー社会に向けてのスポーツ文化を求めて」
司会　吉田夏彦（東京工業大学教授）
宮田九八（前岩手県岩手町々長）
大石三四郎（筑波大学名誉教授）
大島正光（医療情報開発センター理事長）
佐橋　滋（余暇開発センター理事長）
松田智雄（図書館情報大学々長）
水野健次郎（美津濃㈱社長）
閉会式　17：30～18：00

## 参 加 要 領

参加費：一般　¥1,000－　学生　¥500－
申込方法：所定の申込用紙に必要事項を記入し、7月20日までに下記宛送付して下さい。
〒100　東京都千代田区霞が関3－8－1
虎の門三井ビル　余暇開発センター内
ファミリー・スポーツ委員会
「スポーツ文化会議」事務局

参加費は、申し込みと同時に銀行振込（住友銀行虎の門支店㊞14313）で上記宛送付して下さい。申し込み取消しの場合にも参加費はお返し致しませんので、ご了承下さい。
ご不明の点がありましたら下記宛、お問い合わせ下さい。日程および発表者について多少の変更のある場合はご了承下さい。尚、期間中の宿泊につきましては、参加者各自予め、お決め下さい。

東京都千代田区霞が関3－8－1
虎の門三井ビル　9F　余暇開発センター内
ファミリー・スポーツ委員会
「スポーツ文化会議」事務局
（担当　鈴木・尾原）
電話　03－591－8082（直通）

切取線

## 参 加 申 込 書　（様式）

スポーツ文化会議、1981年8月1日－2日、　学習院大学

| | | |
|---|---|---|
| 連絡先住所：〒　TEL | | |
| 氏　名：（ふりがな） | 年齢：　歳 | 性別：　男・女 |
| 勤務先：（学校名） | 役職： | |
| 勤務先住所：〒　TEL | | |

専門研究部会参加希望（ご希望のところの番号を○で囲んでください）
1　生涯スポーツ部会
2　障害者のスポーツ交流部会
3　トリム健康教育部会
4　スポーツ産業部会
5　スポーツ情報部会
（記入しないでください）

| | | |
|---|---|---|
| 受付： | 返送： | 参加費： |

# 講 習 会

昭和56年6月19日〜21日、東京ＹＭＣＡ山中湖センターで行いました「1981 障害児キャンプ指導者講習会」。参加者は少数でしたが、その感想には、多大の成果が如実に示されています。

## 障害児キャンプ指導者講習会に参加して

筑波大学附属盲学校　伊 藤 忠 一

普通学校に障害児が入学し健常児と一緒に学校生活を送るようになってから、今までの知識や経験だけでは処理しきれない多くの問題点が提起されている。

ポリオや脳性まひで手足の不自由な子どもたちに、自然環境でのキャンプ生活を体験させるというむずかしい行事に、20年前から取り組んで実行している団体がある。その行事に最初から参画し、現在も指導的立場で毎年のキャンプに参加しておられる方々を講師に迎えた学体連主催の表記の講習会に、私自身に欠けているものを学びそして補うつもりで参加した。

参加した学体連の先生方は5名で最初のミーティングでは、どうなるものかと心細さを感じたが、講師の先生方の御配慮で、同じ時期に研修会をもった。今年度のキャンプのリーダー（学生ボランティア）諸君のプログラムにも加わることができ、内容の濃い、充実感にあふれた3日間をすごすことができた。

学校がキャンプ活動に障害児を参加させようと考えるときには、特別な設備、用具が必要だという発想ではなく、不十分な状態で参加させるためにはどうすればよいかという立場で考えて欲しいし、また今までキャンプ生活を体験したことのある障害児やこれを支えてきたリーダー（学生ボランティア）諸君の意見などを是非参考にしていただきたいという気がした。

情熱や愛情だけでは指導できない。

ちょっとした配慮を欠くことによって、児童生徒に心理的負担を与えてしまい、事後の活動に支障を来たすことがある。指導者が、障害についての正しい理解と介助の正しい方法を体得していなければ、活気のあるキャンプ活動を展開することはできない。生命の維持に直結している介助の仕方は、障害の種類や程度によって異なるが、その生活場面に応じた技能と心構えについて理解することができた。このことを知ろうとはしないで、自分の学校に在籍する障害児を体育プログラムや学校行事に参加させない教師がいるとすれば、考え方を改める必要があるように思う。

手を出すな、しかし目は離すな

安全第一と事故を恐れるあまり、きめられたプログラムにただ参加させるだけという活動も教育という観点からみると問題がある。参加した児童生徒が、自分たちのできる範囲で、創造的に活動に参加していく姿勢をとらせるための配慮が必要だと強調された。障害児だからといってあまり手をかけすぎることは、かえって彼等の活動意欲を低下させる原因になる。さりげなく振舞いながら、細心の配慮をおこたらない指導者のもとで、活発な活動が展開されるということこそ、リーダー研修会できびしくいわれたことである。

ともに行う活動

障害児は1対1で育てられ、生活してきているので、他人（先生・友人）とともに行う活動の機会が少なく、忍耐力と集中力に欠けているといわれている。自分の家から外に出る機会がなく、対人関係の欠如が発達の障害になっているので、キャンプ生活は人間関係を回復させることにも役立ち、生活意欲も出てくるとのことである。指導者や友だちとともにプログラムをつくり出していくキャンプ生活は、障害児に自発性を芽生えさせるきっかけになり、リハビリテーションのよい機会をもっていることを学んだ。

指導者はゾーンディフェンスで

リーダーの働き如何がなんといっても、キャンプ活動の成果を左右するので、折にふれて、こころ配りと気ばたらきが求められていた。リーダーが複数だとメンバーに分裂がおこるので、キャビンリーダーは7人のメンバーを1人で面倒をみることになっている。キャビンリーダーが1対1の介助をしている時は、直接関係のないリーダーはキャビン、手洗いの近くにいて、他のメンバーの行動に目を注いでいくなどのはたらきが必要になる。そのため夜のリーダーミーティング、朝のスタッフミーティングは、キャンプ全体の動きについて共通の理解を持つために重要になってくることが強調されていた。

実際の場面を想定しながらの実習に重点をおいた講習をおえた夜、キャビンでそれぞれの学校の様子や児童生徒の状態について話し合うことができたことも有意義だった。リーダー研修会に参加した学生たちと食卓をともにしながら歌を歌ったり、話ができたこともいい思い出になった。参加者が多いと、どうしても形式的になるので、できれば10人ぐらいに参加者を制限し、学体連の恒例講習会として継続していってもらいたいと思っている。





## 「障害児キャンプ・指導者講習会」に参加して

宮崎県立盲学校　山 田 真 一

まず、今回このような貴重な体験の機会を与えて下さった日本学校体育研究連合会の先生方に御礼を申し上げます。

障害児関係の職に就いて三年目に入りましたがその間、何をやってきたのか後に残るものが何もなく「これでは自分の仕事に自信が持てない。」と思ってた頃、内地留学という形で長期に渡り、研究する時間を県より戴き、4月から東京へ出てきて、「よし、何でもやってみよう。」という気持ちの時に講習会の話を聴き、詳しい内容も知らないままに申し込んでしまい、学校行事でも障害児へのキャンプ指導の経験はいまだなく不安をぬぐえないままに参加することになりました。それに「3日間の日程はちょっと長いなあ。」という感じもしておりました。

「何かひとつぐらいは身につくだろう。」それが東京ＹＭＣＡ山中湖キャンプ・サイトに着くまでの偽らざる私の心境でありました。ところが、講習を終えた帰りのバスの中では「大きな勉強を二つもした。」という満足感に浸りきっておりました。この二つは実に質量のある尊いものです。

ひとつは「組織キャンプ」を知りました。詳述はできませんが簡単にその歴史・内容を書いてみますと、

一世紀以上も前から北米で始まり時代背景により様々な形を経て現在に至り、日本では1911年大阪ＹＭＣＡが最初の組織キャンプを行いました。また、障害児（肢体不自由児）を対象としたものは1953年、神戸ＹＭＣＡが朝日新聞厚生文化事業団と共催で小豆島のキャンプ場で行ったのが最初でした。その後場所・時期・期間・対象などに改善が成され、1962年から東京ＹＭＣＡ山中湖キャンプ場に於いて、日本肢体不自由児協会・東京ＹＭＣＡ・毎日新聞東京社会事業団の共同主催により今日に至っているそうです。

次にキャンプの組織構成を掲げますと、

主催団体⇒キャンプ・ディレクター（キャンプ全体の統括責任者）⇒プログラム・ディレクター（プログラム遂行上の全体指揮）⇒プログラム・スタッフ（プログラム面での技術的な援助と指導）⇒プログラム・リーダー（プログラム企画・運営における援助と指導）⇒プログラム・ユニット・リーダー（ユニット補佐とプログラム運営）⇒ユニット・リーダー（各ユニットでの指導と援助）⇒ルーム・リーダー（キャンパーと生活を共にする直接的指導者）⇒キャンパー（参加児童）＋ビジネス・スタッフ（渉外・会計面でのマネージメント）となります。「⇒」は権力・力関係を示すものではなく各々の係は同等・並列にあり、最小単位集団、ユニット(キャンパー）の為の協力関係にあります。

ディレクター・スタッフ・リーダー達はキャンプ・インまでに数十回の委員会・ミーティング・交流会・宿泊トレーニング等の研修を重ね、キャンプ終了後も反省会・キャンパー評価（キャンプ前後の変容）思い出文集作成等を記録として残す為の活動が絶えず成されているのであります。

このような組織・活動により実施されるキャンプの実際は全て子供達のものであり内容として特筆すべきはプログラム決定までの経過でそれを簡単に述べてみますと、

午前～比較的動きの軽いプログラム（七宝焼・紙粘土づくりなど）

午後～動的プログラム（ハイキング・水泳など）

夜～静かな情緒的プログラム（キャンドル・サービス・ユニット話し合いなど）の骨組みをプログラム・スタッフで考えておき、キャンパーの自主性を最大限に生かす目的でキャンプ・イン後キャンパーの意見を求めスタッフの考えとキャンパーの意見がより尊重されるべく決定していきます。野外炊事に於いても同様の経過を辿りリーダーは助言者として存在し、活動に入ると援助者となるわけです。要するに子供達は「キャンプをしている。」のです。当り前のことのようですが学校教育現場では形の上での参加が場面はあってもいきおい行事消化目的に陥り「キャンプをさせられている。」と思う子供達は少なくないでしょう。現実にはいろんな問題があり忙しく学校行事として組織キャンプを実施することは困難だと思われるでしょうが、このキャンプのスタッフ・リーダー達はそれぞれ違った本職を持っておりながら、忙しい中を時間を裂いて来ているのです。それを考えると学校に於いてもこのようなキャンプ実施は決して不可能ではない筈です。

ちょっと横道にそれましたが、組織キャンプの条件を列挙します。

1　自然環境（美しい）中での活動～清(きよ)けさ→解放感→創造性

2　集団生活を通しての活動～人数分の文化交流→個人の能力を越えた発見

3　指導者とともに行う活動～子供と一緒にやっていく

4　自然の素材を用いる活動～素朴さを学び・満喫する

5　創造的自主的活動～自然の状態・動きによるプログラム

以上、組織キャンプについて述べてみましたが私自身、スタッフ・リーダーの宿泊トレーニング場面しか見ておらず理解に欠ける点があり、充分ではありませんが、子供達の自主性・協調性を最大限生かすことに主目的が置かれているのがこのキャンプではないかと思います。尚、障害児対象ということで安全面での心配が先に立ってしまい勝ちですが、専門医によるリーダー達への対象児のもつ様々な障害の医学的理解の為の説明、トイレ・入浴・食事等の介助訓練が続けられ、事故防止上の配慮は充分されています。それでも事故が発生した場合は「障害児だから」とは言えないでしょう。

ひとつ目が長くなりましたがふたつ目は先に述べたようなスタッフ・リーダー達に接することができたということです。私達は月給を受けており障害児の為に働くのは当然なんですが、彼等は違います。少ない有給休暇を使い果たし、また学生は勉強の時間を裂いて遠いところまでやってきます。このキャンプに費す労力は準備会・研修日程表を見ても相当なものであることが解ります。よくある暇をみて、時間のある時に行う奉仕ではありません。それに彼等の明るいこと。一同が目的をひとつにして、しかも自分の利益の為じゃなく活動している姿に接し、「世の中にはこんなに素晴しい人々がいるのだ。」という思いで東京での所謂悪い面での都会を感じていた私は胸にジーンと込み上げてくるものがありました。この貴重な体験を生かすべく私も彼等に恥じない生き方をしていくつもりです。





# 第12回全国学校体育指導者講習会

期日　昭和56年8月3（月）・4（火）・5日（水）

会場　学習院大学 東京都豊島区目白1－5－1
電話03－971－8989

1　日　程

| 区分＼日 | 第1日　8／3（月） | | 第2日　8／4（火） | | 第3日　8／5（水） | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 午前 | 受付　9：00～9：30 | | 実技　9：30～12：00 | | 実技　9：30～12：00 | |
| | | | A班 | B班 | A班 | B班 |
| | 開講式　9：30～10：00 | | 表現運動<br>器械運動 | 基本の運動<br>ゲーム | ボール運動 | 体操 |
| | 講演　10：00～12：00 | | | | 質疑応答<br>閉講式　11：00～12：00 | |
| 昼食 | 12：00～13：30 | | 12：00～13：30 | | | |
| 午後 | 実技　13：30～16：30 | | 実技　13：30～16：30 | | | |
| | A班 | B班 | A班 | B班 | | |
| | 基本の運動<br>ゲーム | 陸上運動<br>ボール運動 | 体操<br>陸上運動 | 表現運動<br>器械運動 | | |

2　講　師

講　演　宇土正彦　筑波大学教授
演題「これからの小学校体育に期待するもの」

基本の運動　長沢靖夫　東京学芸大学助教授
ゲーム　加室一臣　東京都立教育研究所主任指導主事
表現運動　金井芙三枝　日本女子体育大学教授
器械運動　中島光広　筑波大学教授
体操　大野幸男　東京都立教育研究所指導主事
陸上運動　岩永務　江戸川区下鎌田小学校長
ボール運動　関四郎　東京学芸大学教授

3　定　員　200名

4　会　費　5,000円（資料費，講師謝金，会場費，雑費にあてる。申込書に添えて申し込んで下さい。）

5　携行品　運動の服装・靴　筆記具　保険証

6　申　込　申込書に必要事項を明記し，会費を添えて下記あてにお申し込み下さい。各地区とりまとめてお申し込み下さると，何かとご便利です。

〒151　東京都渋谷区代々木神園町3－1
国立オリンピック記念青少年総合センター内
日本学校体育研究連合会　電話　03-465-3954・7464

会費振込先　第一勧業銀行代々木支店
普通預金講座　№1364078
財団法人　日本学校体育研究連合会　会長　大石三四郎

7　申込期限　7月20日（月）　疑問の節は電話でご連絡下さい。

8　宿　泊　特にあっせんいたしません。

**第12回全国学校体育指導者講習会申込書**

| 参加数 | 氏名 | 学校名 | 連絡先・電話 |
|---|---|---|---|
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |

会費5,000円×　　人　＝　　円也

昭和56年　　月　　日

（代表者）氏　名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

（財）日本学校体育研究連合会御中

# 体育・スポーツ教材・教具作品募集要項

1　目的
全国の幼稚園、小学校、中学校、高等学校および盲・聾・養護学校の幼児、児童、生徒および教職員等が体育、スポーツ指導のなかで工夫創作し、実際に活用できる教材・教具を募集して、関係教職員の参考に供し、体育、スポーツの振興に寄与する。

2　主催
（財）日本学校体育研究連合会
後援
ブラザー工業株式会社

3　応募資格
全国の幼稚園、小学校、中学校、高等学校、盲・聾・養護学校の幼児、児童、生徒および教職員ならびに保健体育行政機関関係者とこれに準ずる者。

4　応募方法
所定の申込用紙に必要事項を記入して申し込む。

5　申込先
〒151　東京都渋谷区神園町３～１
国立オリンピック記念青少年総合センター内
（財）日本学校体育研究連合会事務局
電話　03-465-3954・7464

6　締切り期日
第１次審査　昭和56年８月31日(月)
第２次審査　該当者に追って通知する。

7　審査
(1)　第１次審査　応募時の書類による審査
(2)　第２次審査　書類審査を通過した者から提出された実物または模型による審査
×模型の場合は実物と同様の構造、機能が確認できるものとする。

8　発表
第1次審査、第2次審査ともにその結果を締切り後３週間以内に通知する。

9　表彰
優秀な作品を表彰する。金賞、銀賞、銅賞がある。

10　費用
申込金は不要。但し、作品の送付、返却に要する費用は応募者の負担とする。

11　その他
パテント、ＪＥＳ規格等を希望する場合は、申込み前に申請を済ませておくものとする。

申　込　書（Ｂ４の大きさとする。）

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 申込み年月日 | 昭和　　年　　月　　日 | | | |
| 受付番号 | | | | |

（財）日本学校体育研究連合会
会長　大　石　三四郎殿
体育・スポーツ教材・教具作品募集要項によって下記の通り申し込みます。

記

1　作品名

| |
|---|
| |

2　応募者

| | |
|---|---|
| 氏名 | |
| 現住所 | 〒 |
| 電話番号 | |
| 所属先 | |
| 所在地 | 〒 |
| 電話番号 | |

作成者が複数の場合は、氏名欄に代表者名を記入する。

3　概要

| | |
|---|---|
| 作品のねらい | |
| 作品の特色 | |
| 作品の使用方法 | |

4　略図（別紙）
寸法を記入する。写真があれば貼付する。





# 全国学校体育研究大会　決定

1　第20回（昭和56年度）大会
期　　日　　昭和56年11月19日（木）20日（金）
研究主題　　たくましいからだと心を育てる
全体会場　　大阪市　大阪厚生年金会館
分科会数　　幼２　小９　中５　高５　養１

2　第21回（昭和57年度）大会
期　　日　　昭和57年10月７日（木）８日（金）
研究主題　　生涯スポーツを志向した学校体育のあり方
全体会場　　新潟市　新潟県民会館
分科会数　　幼１　小５　中４　高２　養１

3　第22回（昭和58年度）大会
開 催 県　　神奈川県

## ―書　評―

大石昭爾著『誰も書かなかったリヒテンシュタイン』　サンケイ出版　昭56.6.
定価　980円

「リヒテンシュタイン」と聞いて、筆者がまず想い起こすのは、「切手」である。かつてウィーンにゆく道中、スイスのチューリッヒに途中下車して、美しい色彩と、グッドデザインの切手セットをいくつも見た経験のことである。我国と異なって、切手のセットがいくつもあり、古いものから、新しいものまで、各種の手ごろな値段にまとめられている。売り子の女性も、美しく、かつ、極めて親切である。その親切さは、「切手」がリヒテンシュタインにとっては、重要な国家の収入源となっているところからくる相違かなと、しみじみ思った程である。しかし、どこかの国の如くエコノミックアニマルよろしく、ただ、サービスにこれつとめて、売りまくればよいという考え方でなく、ソ連のアフガン侵攻に、間接的に抗議した形で、モスクワ、オリンピック記念切手を発売予定日を直前にして、焼却するという、気骨のあるところも示すお国柄である。

そこには、小なりというども独立国であり、かつ、かの有名なオーストリア・ハプスブルグ家の貴族、リヒテンシュタイン候家、第13代の治める候国である「誇り」が感ぜられる。それでいて、決して、独裁国ではなく、５人の閣僚、２つの政党によって政治は運ばれ、重要事項は、となりのスイス同様、国民投票によるという民主的な運営の国柄であることがわかる。（但し、女性の国政参政権はない。）

一方、アルプスの少女、ハイジの舞台となったメルヘンの村マイエンクヒルト村に接しながら、食糧の備蓄や、国民皆兵（民兵制）の国スイスとの緊密の連携を忘れない非武装中立の国のリヒテンシュタインの素顔が、著者とその家族ぐるみの４ケ月の「留学」体験を通して、各所ににじみ出ている貴重な書といえる。本当の意味で「誰も書かなかった」リヒテンシュタイン紹介の書である。

国立特殊教育総合研究所教育工学研究部長　　詫　間　晋　平

アメリカ医師会編　性の総合科学研究会訳『人間の性』
株式会社出版科学総合研究所発行
昭55.11月
定価　6,500円

日本の学校で行われている性教育は、一般的な知識を授けたり、調べたり、発表させたりはしているが、１人１人の深い疑問に答えているとは思えない。幅広く奥深き性教育の領域の、一部を担っているのである。何故か。それは最後にはマンツーマンの部分に入って、１人１人の疑問を、分りやすく解決してやらなければならなくなるのだが、ここに踏み込むことは容易ではないからである。

この本は、生理的、病理的知識が十分である医師に対して、なお人間性の把握と指導をねらいとして、幅広く配慮豊かに性を展開し、医師のあるべき姿を期待して書かれている。同時に懸命に性教育を実施してなお満ち足らぬ学校の先生方に、最も欲しいと思われる何かを提供し、あるいはもやもやを解決する緒を与えるものであると考える。

直接あなたのためとして書かれたのではない本を読んで、その示唆に打たれることは、よくあるものである。

（財）日本学校体育研究連合会理事長　　重　田　　一
前東京都立富士高等学校長

# 昭和56年度研究事業調査結果の報告

前年度も同趣旨の調査を実施し結果を「学体連会報」第７号に報告いたしました。
今年度の分が一応まとまりましたので御報告いたします。研究担当校その他もわかっておりますので、もし具体的に知りたい方は事務局の方に問い合わせてください。なお、ここには、決定ずみの分だけ掲載する。　事務局

＜小学校＞

| 都・府・県 | 研究主題 | 研究担当校 |
|---|---|---|
| 北海道 | ひとりひとりが喜びを持って楽しめる体育学習のあり方 | 函館市立弥生小学校 |
| 岩手 | 岩手県学校体育研究大会 | |
| 山形 | 運動の喜びが高まる体育指導はどうあればよいか | 最北地区 |
| 福島 | 進んで運動し意欲的に学習活動する児童を育成する指導はどうあればよいか | 南会津郡只見町立明和小学校 |
| 群馬 | 県学校体育研究発表会 | 県内研究推進校 |
| 埼玉 | 子供達が生き生きと活動する授業の計画と実践　基本運動・表現運動 | |
| 千葉 | 子どもの生活を生き生きとさせるための体力つくり | 市川市立行徳小学校 |
| 神奈川 | 体力つくりについて、正しい理解を深め、その推進をはかる | 各地区代表 |
| 〃 | 学習指導要領の趣旨を十分理解し、体育指導の実践への効果をはかる | 〃 |
| 新潟 | 生涯スポーツの志向 | |
| 〃 | 新教育課程の編成 | |
| 〃 | 体育教材とその管理 | |
| 石川 | 自ら考え正しく判断し、それを実践できる児童・生徒の育成をめざす体育指導 | 金沢ブロック |
| 長野 | すべての子どもが運動の楽しさを味わい進んで取り組む体育の学習はどうあればよいか | 長野市立城山小学校 |
| 〃 | 〃 | 木曽郡上松町上松小学校 |
| 岐阜 | 一人ひとりが運動に親しみ、体力を高めるための指導 | 恵那郡明智町立明智小学校 |
| 愛知 | 太陽と土に親しみ自ら運動に励む子をめざす | 岡崎市立井田小学校 |
| 〃 | 健康でたくましい東田っ子－めあてをもちはげまし合いがんばり抜く子をめざして－ | 豊橋市立東田小学校 |
| 〃 | 体育の生活化とたくましい子どもづくり | 豊橋市立東部小学校 |
| 〃 | 自ら進んで体力つくりにはげむ子の育成 | 一宮市立浅井中小学校 |
| 滋賀 | 子供が楽しく学べる体育学習 | 各ブロックで研究推進 |
| 〃 | 〃 | ２校予定　未定 |
| 大阪 | 小中体研研究発表大会 | |
| 兵庫 | 子どもの欲求を生かす体力つくり | 加古川市立陵北小学校 |
| 〃 | 県学校体育研究発表大会 | |
| 鳥取 | 楽しく進んで取組む体育学習 | 西伯郡中山町中山小学校 |
| 〃 | 発達段階に応じた効果的な学習指導　鳥取県学校体育研究発表大会　小中高合同 | 米子市尚徳中学校 |
| 島根 | ひとりひとりが喜んで参加する運動学習 | 江津市立郷田小学校 |
| 岡山 | たくましい体とゆたかな心－自主的に仲間と歩む体力つくり－ | 山手小学校 |
| 〃 | 21世紀を生きる健康な子どもづくり | 成羽小学校 |
| 広島 | 誰もが楽しくできる体育学習を目指して | 県三次教育事務所管内<br>研究指定小学校４～５校 |
| 山口 | 自らたくましい体力つくりにはげむ子ども | 豊田町立西市小学校 |
| 徳島 | 運動の楽しさを求める体育学習 | 板野郡松島小学校 |
| 佐賀 | 佐賀県保健体育研究発表大会 | |
| 熊本 | 喜んで実践する体育学習をめざして | 山鹿市米田小学校 |
| 宮崎 | 主体的に創造し、自主的に実践する体育学習をめざして | 宮崎小　大淀小　生目小<br>宮大附小　　他１校 |
| 鹿児島 | ひとりひとりが喜んで取り組む体育学習のあり方 | 鹿児島市立東谷山小学校 |
| 〃 | 県学校体育研究発表大会 | |
| 沖縄 | すすんで実践する体育学習をめざして　＜副＞　よろこんで実践する体育学習をめざして | |





＜中学校＞

| 都道府県 | 研究主題 | 研究担当校 |
|---|---|---|
| 北海道 | ひとりひとりが喜びを持って楽しめる体育学習のあり方 | 函館市立西中学校 |
| 岩手 | 岩手県学校体育研究大会 | |
| 山形 | 楽しい体育の授業をさがして | 各地区・各学校で |
| 福島 | 進んで身体活動をする能力や健康で安全な生活をする態度を育てる指導はどのようにしたらよいか | 本宮町立本宮第一中学校 |
| 群馬 | 県学校体育研究発表会 | 県内研究推進校代表 |
| 埼玉 | 個人的スポーツ（器械運動）の特性をふまえた指導法とその評価について | 志木第二中学校<br>北本市立北本中学校 |
| 〃 | 個人的スポーツ（陸上競技）の特性をふまえた指導法について | 入間市立藤沢中学校<br>嵐山町立七郷中学校 |
| 〃 | ダンスの特性をふまえた指導法について<br>ダンスの楽しさを味わい活力に満ちた授業の展開をめざして | 担当校５校 |
| 千葉 | 授業における基礎体力つくりをどのように推めたらよいか | 市川市立高谷中学校 |
| 神奈川 | 生徒自ら運動に親しむ体育学習を求めて | 各地区代表 |
| 〃 | 体力つくりの計画と実践 | 〃 |
| 新潟 | 生涯スポーツの志向 | |
| 〃 | 新教育課程の編成 | |
| 〃 | 体育教材とその管理 | |
| 石川 | 自ら考え正しく判断しそれを実践できる生徒の育成をめざす体育指導 | 小松ブロック |
| 長野 | すべての子どもが運動の楽しさを味わいすんでとり組む体育学習はどうあればよいか | 長野市立東部中学校 |
| 〃 | 〃 | 木曽郡上松町上松中学校 |
| 岐阜 | 自らめあてを持ってねばり強く運動する生徒づくり | 養老町立東部中学校 |
| 愛知 | たくましく明るい生徒の育成をめざして | 海部郡蟹江町立蟹江北中 |
| 〃 | 「心・技・体」の調和ある人間形成をめざす格技指導 | 知多市立八幡中学校 |
| 滋賀 | 格技の効果的な指導について | 安曇川町立安曇川中学 |
| 〃 | スポーツの喜びや楽しさを味わせる体育指導について | 各ブロック代表 |
| 大阪 | 小中体研研究発表大会 | |
| 兵庫 | 全校縄とび運動による体力つくり | 西宮市立甲武中学校 |
| 鳥取 | 東・中・西三地区毎に研究会開催予定 | |
| 〃 | 発達段階に応じた効果的な学習指導（学校体育研究発表大会） | 米子市尚徳中学校 |
| 島根 | 中学校における望ましいスポーツ活動のあり方を求めて | 大田市立第二中学校 |
| 岡山 | 生徒の自発的意欲に基づく体力つくり | 阿哲郡神郷町立神郷中 |
| 山口 | 保健体育における自主的学習態度の育成 | 周東町立周東中学校 |
| 〃 | 心身ともに健康な生徒の育成 | 錦町立錦中学校 |
| 徳島 | 運動の楽しさを味わわせる体育学習を求めて | 海部郡中体連 |
| 佐賀 | 県保健体育研究発表大会　　（主題は未決定） | 中学（３校） |
| 熊本 | 自らすすんで実践する体育学習 | 球磨、人吉郡市各中学校<br>体育研究会 |
| 宮崎 | 主体的に創造し、自主的に実践する体育学習をめざして | 市立大塚中、住吉中他１ |
| 鹿児島 | 中学校部活動のあり方 | 関係中学校 |
| 〃 | 学校体育研究発表大会 | 〃 |
| 沖縄 | 進んで実践する体育学習をめざして | 未定 |

＜高等学校＞

| 都道府県 | 研究主題 | 研究担当校 |
|---|---|---|
| 北海道 | 保健体育指導上の諸問題 | |
| 青森 | 各学校の特色を生かし、生徒の能力適性の伸長を図るための「体育」「保健」の指導計画と指導法 | 全高校共通研究 |

| | | |
|---|---|---|
| 〃 | 体力に応じた自主的体力つくりの実践 | 県立木造高等学校 |
| 岩　手 | 学校体育研究大会 | |
| 山　形 | 生涯体育に結びつく学校体育 | 県立米沢工業高等学校 |
| 埼　玉 | 体力向上 | 県立三郷、入間、川口東、熊谷西高等学校 |
| 〃 | 格技指導法 | 県立所沢北高等学校 |
| 千　葉 | 生涯体育をめざした体育指導のあり方 | 県立船橋二和高等学校 |
| 東　京 | 視聴覚器材の活用について | 都高保体研視聴覚部 |
| 〃 | 新しい学習指導要領に基づく「保健」の授業について | 〃　保健部 |
| 〃 | 体育学習における望ましい態度・習慣の育成について | 〃　体育部 |
| 〃 | 現状をふまえた定時制体育の指導内容 | 〃　定時制部 |
| 〃 | 体育の施設・設備について | 〃　第1支部 |
| 神奈川 | 学校内外におけるスポーツ活動の活発化及び体力つくりの生活化 | 研究委員会代表校 |
| 〃 | 新学習指導要領の趣旨に基づく教育課程の編成 | 〃 |
| 岐　阜 | 新学習指導要領の主旨をふまえ本校の実態に即した体育指導のあり方 | 県立海津高等学校 |
| 愛　知 | 部活動（主として運動部）参加生徒の高校3年間における成績（教科学習）と進路の関連について | 高校部会特別研究委員会 |
| 〃 | 運動能力テスト級別判定基準について | 〃　各地区研究会 |
| 三　重 | ダンスの指導について | 久居農林高等学校 |
| 滋　賀 | 新学習指導要領の諸問題 | 県立栗東高等学校 |
| 〃 | 器械運動の効果的指導法 | 県立大津中央高等学校 |
| 〃 | 体育の授業をより効果的にすすめるには | 県立愛知高等学校 |
| 大　阪 | 創作ダンス発表会 | |
| 〃 | 研究発表会 | |
| 鳥　取 | 東・中・西各地区毎に研究会を開催する | |
| 島　根 | （未定） | 県立出雲工業高校 |
| 岡　山 | 体力の向上と運動の日常化 | 県立高梁工業高等学校 |
| 広　島 | 体力つくりについて | 県立熊野高等学校 |
| 〃 | 早朝マラソンを中心とした生活化について | 県立西条農業高等学校 |
| 山　口 | 新学習指導要領に基づく指導計画の中での体力つくり | 県立岩国商業高校 |
| 徳　島 | 保健科学習指導の効果的なあり方（保健科学習指導の進め方－心身の機能・健康と環境－） | 県高体連南部ブロック |
| 〃 | バスケットボールの指導法について | 〃 |
| 佐　賀 | 保健体育研究発表大会 | 高校3校 |
| 長　崎 | 本校における体育的学校行事のあり方と体力の向上をめざして | 県立西彼杵高等学校 |
| 〃 | 自己実践による体育学習の計画と指導目標をめざして | 県立諫早高等学校 |
| 熊　本 | 自ら実践する体育学習 | 高校体育研究会 |
| 宮　崎 | 主体的に創造し、自主的に実践する体育学習をめざして | 県立宮崎南、宮崎大宮高 |
| 鹿児島 | 体育研究発表大会 | 関係高等学校 |
| 沖　縄 | 自ら実践する体育学習をめざして | 未定 |





# 昭和56年度　収 支 予 算 書

財団法人　日本学校体育研究連合会

収入の部

| 科目 | 本年度予算額 | 前年度予算額 | 増　減△ | 摘　要 |
|---|---|---|---|---|
| 1分担金等 | 11,220,000 | 1,565,000 | 9,655,000 | |
| (1)加盟団体分担金 | 1,220,000 | 1,220,000 | 0 | 60,000 × 4 ＋ 40,000 × 7 ＋ 20,000 × 35 |
| (2)賛助会費 | 10,000,000 | 345,000 | 9,655,000 | |
| 2基金収入 | 1,740,000 | 860,000 | 880,000 | |
| (1)基金収入 | 1,740,000 | 860,000 | 880,000 | 定期預金利子 |
| 3事業収入 | 251,000 | 151,000 | 100,000 | |
| (1)講習会 | 250,000 | 150,000 | 100,000 | 参加受講料 |
| (2)図書出版 | 1,000 | 1,000 | 0 | |
| 4寄附金 | 1,000,000 | 7,900,000 | △ 6,900,000 | |
| (1)一般寄附 | 1,000,000 | 7,900,000 | △ 6,900,000 | |
| 5補助金 | 1,000,000 | 1,000,000 | 0 | |
| (1)スポーツ財団補助金 | 1,000,000 | 1,000,000 | 0 | 水野スポーツ振興会 |
| 6雑収入 | 600,000 | 364,443 | 235,557 | |
| (1)雑収入 | 600,000 | 364,443 | 235,557 | 会報広告費助料、普通預金利子 |
| 7繰越金 | 1,500,000 | 1,002,557 | 497,443 | 55年度よりくりこし |
| 合計 | 17,311,000 | 12,843,000 | 4,468,000 | |

支出の部

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 1事務費 | 8,090,000 | 4,353,000 | 3,737,000 | |
| (1)通信電話料 | 600,000 | 450,000 | 150,000 | 切手、ハガキ、電話料 |
| (2)旅費交通費 | 700,000 | 500,000 | 200,000 | 常務理事、理事、評議員、職員交通費 |
| (3)消耗品費 | 150,000 | 150,000 | 0 | 事務用品他 |
| (4)印刷費 | 250,000 | 250,000 | 0 | 各種印刷 |
| (5)什器備品費 | 200,000 | 100,000 | 100,000 | |
| (6)人件費 | 5,250,000 | 2,010,000 | 3,240,000 | 職員2名（200,000 / 150,000 × 15） |
| (7)会議費 | 100,000 | 80,000 | 20,000 | |
| (8)賃借料 | 640,000 | 672,000 | △ 32,000 | （747 × 365）＋（30,000 × 12） |
| (9)雑費 | 50,000 | 51,000 | △ 1,000 | |
| (10)委員会費 | 100,000 | 60,000 | 40,000 | |
| (11)渉外費 | 50,000 | 30,000 | 20,000 | |
| 2事業費 | 7,881,000 | 7,150,000 | 731,000 | |
| (1)学校体育助成事業 | 4,800,000 | 4,750,000 | 50,000 | |
| (1)加盟団体補助 | 2,500,000 | 2,500,000 | 0 | 各都道府県（50,000 × 45 ＋全国大会開催団体 150,000） |
| (2)全国大会研究調査助成費 | 1,500,000 | 1,500,000 | 0 | 56年度　100万円　57年度　50万円 |
| (3)「学校体育研究」作成費 | 800,000 | 750,000 | 50,000 | 印刷・配送費、執筆謝金 |
| (2)優良校・功労者表彰費 | 1,900,000 | 1,700,000 | 200,000 | 表彰状、楯、バッヂ、表彰報告印刷 |
| (3)講習会費 | 250,000 | 150,000 | 100,000 | 会場費、講師謝金、要項印刷、運営雑費 |
| (4)研究大会費 | 350,000 | 150,000 | 200,000 | 本部役員交通費 |
| (5)会報費 | 581,000 | 400,000 | 181,000 | 印刷発送費 |
| 3団体加盟費 | 40,000 | 40,000 | 0 | |
| (1)加盟費 | 40,000 | 40,000 | 0 | 日本教育研究連合会、青少年育成国民会議 |
| 4積立金 | 500,000 | 500,000 | 0 | 職員退職手当引当金 |
| 5予備費 | 200,000 | 200,000 | 0 | |
| 6次年度へ繰越 | 100,000 | 100,000 | 0 | |
| 7基本財産繰入 | 500,000 | 500,000 | 0 | |
| 合計 | 17,311,000 | 12,843,000 | 4,468,000 | |

学体連が編集した本があります。

**現代小学校体育全集**　　発行所　株式会社ぎょうせい

この会報の最初に出ている会長のことばのなかにあるように、学体連編集の現代小学校体育全集がある。13巻中、既に6冊刊行されている。第1巻学校体育、第2巻基本の運動、第3巻ゲーム、第7巻水泳、第8巻ボール運動、第9巻表現運動の6冊だ。

小学校体育の全分野を網羅し、明快な「指導の進め方」と、授業にすぐ使える「展開例」の2部から構成されている。展開例は図解中心で、指導の流れやポイントが一目で分るように工夫されている。見易く作られていることは、本自体に親しみを持たせることになる。各教材の評価の観点を具体的に示し、容易に評価できるようにしてあるのも、大きな助けになろう。運動（教材）の発展や工夫を考えた貴重な資料が、図解で豊富に示されていることも、指導者の興味を拡げ、指導の質を高めるのに役立つであろう。手にとった時、何となく感じがよくて、分り易いなという印象が第一に来たのも事実である。

**親と子のライフ＆スポーツ　子どもとお菓子**　　発行所　株式会社ぎょうせい　　950円

子どもにかかせないおやつ。その歴史と現状を概括し、お菓子とおやつ、子どもの生活とおやつ、子どもの健康とおやつ、おやつの与え方に分けてのべられている。何ということもないと思いがちのおやつだが、読んでみて、おやつの持つ意味や、与え方の如何でよくも悪くもなると、今さらのように教えられるのである。そして20年前と現代の母親のおやつに対する考え方を比べると、現代の母親が当を得ているという調査結果もあることを知った。このような母親に育てられている子どもの幸を思うのである。

**親と子のライフ＆スポーツ　子どもとボウリング**　　発行所　株式会社ぎょうせい　　950円

何だボウリングかと、多くの人は思うだろう。ひとりひとりの人間が、生涯にわたって継続的にスポーツを実践する能力と態度を養うことが、学校体育の目標の大切な1つである。行く行くは自由時間もより長くなる。レジャーとしてのスポーツを身につける。そのスタートは、親子ができる運動である。ボウリングは、このことのため最もよいスポーツ、親子が楽しみながらやれるスポーツだと知らされた。先ず論よりやってみることのようだ。

日本学校体育研究連合会が総力を結集して理論と実際を解説

# 現代小学校体育全集

［全13巻］　〈新学習指導要領準拠〉

日本学校体育研究連合会＝編集　　全13巻セット定価39,000円（〒実費）

1 学校体育　3、200円（〒300）
2 基本の運動　5、000円（〒350）
3 ゲーム　2、900円（〒300）
4 体操　2、900円（〒300）
5 器械運動　2、900円（〒300）
6 陸上運動　2、900円（〒300）
7 水泳　2、200円（〒250）
8 ボール運動　2、900円（〒300）
9 表現運動　2、900円（〒300）
10 保健、スキー・スケート　2、900円（〒300）
11 障害児の体育指導　3、200円（〒300）
12 教科外体育　2、900円（〒300）
13 体育指導の課題と解決　2、200円（〒250）

●造本・体裁＝A5判・上製ケース入り・横組み・各巻平均300～350頁（第2巻「基本の運動」770頁・第7巻「水泳」192頁）

株式会社 ぎょうせい
東京都新宿区西五軒町五三　電話（〇三）三六八一三四（大代表）　振替東京九一六六

## 編集のあとがき

昭和56年度、はじめての会報を急いで出すにしても、読む人が何かを感じ、何かを考えて下さるようなものにしたいと、自分だけで思いながら、結局は読む人におまかせするより他に仕方がないものだと悟った。事務局としておしらせしたいことを、適時適切におしらせすることが、学体連の発展になると分っていても、仲々うまく行かない。仲々うまく行かないと言わず思わず、おしらせすべきことは早く、正確におしらせしなければならぬと、思うことしきりである。